

## 2007年に漂着した海棲哺乳類について

南知多ビーチランドが2007年1月から12月まで取り扱った海生哺乳類は合計33例で、スジイルカ1例、カマイルカ1例、スナメリが31例でした(図-1)。

スジイルカ(写真-1)は、2007年3月31日夜20時に、田原市の大草海岸で生きた状態で地元のサーファーにより発見され、田原市警察署を經由して連絡がありました。

介護を要請しましたが、我々が出発の準備をして出発する21時に、介護も及ばず死亡が確認されました。翌日、現地に赴き解剖しました。

本個体は、体長210cmのオスで、尾鰭の背側から尾柄部にかけて約20cmの裂傷が見られ(写真-2)、炎症を起こしていました。

この炎症は尾鰭腹側面まで及んでいました(写真-3)。

栄養状態は悪くないように見られ、削瘦も見られませんでした。第1胃や第2胃には胃内容物は認められず、空胃でした。左右の肺、肝臓、腎臓にうっ血が見られた以外特に異常所見は認められませんでした。精巣は左右ともに長径×短径が6.0cm×1.0cmでした。

以上の剖検結果(詳細な細菌検査や病理検査は実施していませんが)からこの個体は、未成熟個体で何らかの原因で尾鰭の裂傷を負いそれが悪化し衰弱して座礁し死亡したものと思われました。

[図-1] 月別死亡漂着箇所



[写真-1] スジイルカ



[写真-2] 約20cmの裂傷



[写真-3] 尾鰭腹側面



カマイルカ(写真-4、-5)は、2007年5月16日午前10時頃田原市吉胡町の汐川河口で生きた状態で発見され、田原市役所経由で連絡がありました。介護を要請しましたが10時46分、我々が現場に到着する前に死亡してしまいました。



本個体は体長163cmのオスで、削瘦が見られました。皮下脂肪層も薄く、第1胃内もイカの口器があるのみでした。左右の肺、肝臓、腎臓、脾臓にうっ血が見られた以外に特に異常所見は認められませんでした。

肉眼所見では特に死亡原因がわからなかったため、主要臓器をホルマリン保存しました。病理組織検査を行い死亡原因が突き止められればと思っています。

[写真-5] カマイルカ



スナメリはすべて死亡した状態で発見されました。スナメリについては、全31例のうち伊勢湾では19例、三河湾では12例でした。また、雄16例、雌10例、性別不明が5例でした。月別では4月が2例、5月で6例と増加しましたが6月から8月は少なく、9月が6例と増加し、10月以降はまた少なくなり、増減にばらつきが見られました。また、可能な限り体長測定しましたが、体長が計測できたものは26例でした。最小体長は84.0cm、最大体長は186.0cmでした。これらの個体は、腐敗が進んでいたものが多く、死亡原因は特定できませんでした。

今回、生きて漂着したイルカが2頭しましたが、残念ながら救護するに至りませんでした。海岸に生きて漂着するイルカは何らかの原因で座礁してしまう（健常なイルカは、座礁しないと考えられます。）ので、救護することは非常に困難ですが、少しでも経験を蓄積して今後の救護に生かしたいと考えています。